

栗原市の荒戸沢ダム崩落の現場



2008年6月14日朝、大きな地震が発生しました。岩手・宮城内陸地震です。仙台市は震度5レベルでした。ちょうど玄関にいたのですが、屋根の瓦が崩れ落ちてくるのではないかと思うほどの揺れでした。

震源地に近い栗原市は震度6強、被災家屋は栗原市や大崎市を中心に約2600戸でした。犠牲者は23人、負傷者は426人でした。死者のうち土石流や落石の犠牲になった人は11人。山間部で発生した土砂災害の犠牲者が多かったのです。栗原市荒戸沢ダムの大規模地すべりは頻繁に報道されましたので、記憶されている方も多いと思います。

栗原市荒戸沢ダムの大規模地すべりは頻繁に報道されましたので、記憶されている方も多いと思います。

宮城県慶長使節船ミュージアム サン・ファン館 館長

ひらかわ あらた 平川 新

未来への航路

内陸地震のあった日

2008年6月14日朝、大きな地震が発生しました。岩手・宮城内陸地震です。仙台市は震度5レベルでした。ちょうど玄関にいたのですが、屋根の瓦が崩れ落ちてくるのではないかと思うほどの揺れでした。

⑫ 岩手・宮城内陸地震と運命

震源地に近い栗原市は震度6強、被災家屋は栗原市や大崎市を中心に約2600戸でした。犠牲者は23人、負傷者は426人でした。死者のうち土石流や落石の犠牲になった人は11人。山間部で発生した土砂災害の犠牲者が多かったのです。栗原市荒戸沢ダムの大規模地すべりは頻繁に報道されましたので、記憶されている方も多いと思います。

運命の日

背中がゾクゾクして、足ががくがくと震えました。体がこんな反応をしたのは初めてのことでした。じつは私も、その駒の湯に泊まっていたかもしれなかったからです。地震前日の13日に栗原市若柳の旧くりでん本社で、くりでん委員会が開催されたのですが、前回の委員会のときに麦屋さんから、この委員会のあと栗駒山の秘湯に行きませんかというお誘いをいただいたまま、東京在住の麦屋さんは、全国で活躍していた観光ラ...



2008年6月13日のくりでん遺産の保存活用検討委員会。左端が岸由一郎さん、右から2人目が麦屋弥生さん。中央が筆者



ひらかわ あらた 昭和25年、福岡県出身。東北大学名誉教授。館館長に就任した。

魅力的なポイントを存したかったです。ところが翌14日は研究室の同窓会が予定されていたため、参加できませんでした。それで、やはり東京から委員会に出席していた鉄道博物館学芸員の岸さんとお二人で秘湯に向かったのです。委員会が終わったあと、東北新幹線のくりこま高原駅で、一緒にきずに、栗原市の栗駒・花山地区、大崎市の鴨子・鬼首地区などの被災状況調査とレスキュー活動を実施し、たくさん古文書を保全することができました。